

人格二極性診断(TSPS 改訂版)

性格のなかには、たとえば「明るい」と「暗い」のように正反対の特性が含まれています。そして、大方の性格診断・類型化テストでは、回答者がそのどちらに属するののかということを判定しています。つまり、「あなたは明るいほうですか？それとも暗いほうですか？」といった具合にです。こうして、回答者の性格は「明るい」か「暗い」か、そのどちらか一方に決定されるというわけです。

しかしながら、性格というのはそのようにシンプルなものだろうか、という疑問が生じてきます。ひとつの言葉で言い切ってしまうほど「単純な」性格などありうるのだろうか、という当然の疑問です。

この**人格二極性診断(TSPS 改訂版)**は、そういった疑問に答えるためのテストです。しかも、回答が容易になるよう設計されています。質問文そのものは、「どの程度自分にあてはまるか」を考えて●をつけるといった類の問題で統一されています。設計の要点は、対立的なカテゴリーを同時に列挙し、距離データとして判断してもらうように作成されています。すなわち、左の語と右の語とについて、それぞれ独立にどの程度あてはまるかを考えて、あてはまる場所に順に●を付けてもらいます。左の語だけまとめてつけるのではなく、左・右・左・右という順序で付けていくのです。

既存の性格・人格診断テストでは、たとえば、外向的か内向的なのか、そのどちらかに判定されてしまって、自分がその両方をもっていると感じている人は不満を感じていましたし、やや無理矢理にどちらかを選択したという後味の悪さが残りました。対極的な性向のどちらも同居している、と感じていることが多いという実証実験結果にもとづいて、この**人格二極性診断(TSPS 改訂版)**では質問構成を二極並べて、「重さ」の違いを回答してもらう、という従来の心理テストにはない設計となっています。

反面、「二面的」といわれて、なんだか不安に感じる人もあるようです。「分裂」しているのではないかと、「二重人格」ではないかという懸念です。「二重人格」ではないかと心配する人はけっこういるようですが、結論からいいますと、自分のことを「二重人格」ではないかしら、と感じている人はむしろ「二重人格」からは遠い人なのです。「二重人格」の人はたしかに、他人から見れば、対立する人格を併せもった人なのですが、本人は「一重人格」なのだとして自己認知しています。たとえば、普段極端なほどまじめでおとなしい人が、別の場面ではすごく派手な行動をとったりして、その2つの人格の間に「連続性がない」のが二重人格なのです。「二重人格」の人の性格は、その時その時はとても「一面的」なのです。自分のなかに2つのものが「同時に」存在する、と捉えている「二面的」な人は、だから「二重人格」とはまったく異なるといえ、正常な自己認知なのです。

自分はこういう性格だとはっきり言い切れること、すなわち一人格の統合性はたしかに、生きていくうえでとても大切なことですし、これがなければ、私たちは「自分」という感覚をもつことができません。ただし、この統合性というのは、薄っぺらな紙のようなものではないのです。

つまり、1枚の紙で「あなたは外向的」といわれて決まってしまうようなものではないということです。たしかに、全体としては外向的に動くことも多いかもしれないけれど、時によっては内向的にもなるし、昔と今ではずいぶん変化している、そういうことがモザイクのように、あるいは重層的に混ぜ合わされて、

いわゆる「外向的」に含まれている、と言ったほうがより実情に近いのではないではないでしょうか。

それを「外向的」と呼ぶことも決して間違いではないのですが、そういった「ひとつの」視点で見る見方と同時に、「2 つの」視点で見る見方もあるのもいいのではないかと考えられます。その意味では、「多数の」視点で捉える「多面性テスト」というものがあるのもいいということになるのです。

この**人格二極性診断(TSPS 改訂版)**は、普段、人が考えている「あなた」に、ちょっと深みを与えて映し返してくれる鏡なのです。